

(様式第 10)

佐大医経第 178 号
平成 29 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名

国立大学法人佐賀大学長
宮崎 耕

佐賀大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
氏 名	国立大学法人佐賀大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

佐賀大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号	電話(0952) 31 - 6511
---------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	⑧代謝内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科 2 リハビリテーション科 3 ペインクリニック・緩和ケア外科 4 病理診断科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
24床	床	床	床	580床	604床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	279人	233人	357.8人	看護補助者	41人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	9人	2人	10.6人	理学療法士	12人	臨床検査技師	35人
薬 剤 師	40人	0人	40人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助 産 師	18人	1人	18.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	693人	17人	705.7人	臨床工学士	12人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	37人
歯科衛生士	1人	0人	0人	歯科技工士	1人	事務職員	216人
管理栄養士	10人	0人	10人	診療放射線技師	31人	その他の職員	25人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	27人	眼 科 専 門 医	7人
外 科 専 門 医	27人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	2人
小児科専門医	12人	脳神経外科専門医	8人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	14人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	15人
産婦人科専門医	9人	救急科専門医	9人
		合 計	153人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (山下 秀一) 任命年月日 平成28年 4月 1日

平成28年4月1日 ~ 平成28年9月7日 医療安全管理委員会委員長
 平成28年9月8日 ~ 平成29年3月31日 医療安全管理委員会構成員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	456.9人	11.4人	468.3人
1日当たり平均外来患者数	888.2人	44.9人	933.1人
1日当たり平均調剤数	817.8剤		
必要医師数	102人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	16人		
必要(准)看護師数	267人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備	概要	
集中治療室	311.14㎡	鉄筋コンクリート	病床数	16床	心電計 (有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置 (有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー (有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 71.82㎡ [移動式の場合] 台数 13台		病床数	5床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 44㎡ [共用室の場合] 共用する室名 共用なし				
化学検査室	261㎡	鉄筋コンクリート	自動血液分析機、自動生化学分析機		
細菌検査室	81㎡	鉄筋コンクリート	自動塗布装置、自動薬剤感受性検査装置		
病理検査室	214㎡	鉄筋コンクリート	自動包埋装置、クリオスタット		
病理解剖室	53㎡	鉄筋コンクリート	特殊解剖台、特殊型軽量測定運搬車		
研究室	3,143㎡	鉄筋コンクリート	顕微鏡、遠心機、培養装置、パソコン		
講義室	1,277㎡	鉄筋コンクリート	室数 8室	収容定員 987人	
図書室	989㎡	鉄筋コンクリート	室数 6室	蔵書数 116,000冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	88.6%	逆紹介率	90.1%
算出根拠 A: 紹介患者の数			10,489人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			12,668人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,973人
拠 D: 初診の患者の数			14,060人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
奥村 耕一郎	国立大学法人 琉球大学	○	医療機関において、医療安全に関する業務若しくは医療安全に係る研究に従事した経験を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
横田 栄子	公益社団法人 佐賀県看護協会		医療機関において、医療安全に関する業務若しくは医療安全に係る研究に従事した経験を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
鶴田 憲司	NPO 法人クレブ スサポート		医療を受ける者の立場から意見を述べることができるため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無
公表の方法 病院ホームページ「病院案内」のページ内に掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	4人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術	6人
ベベルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法	0人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	0人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	1人
アルテプラゼ静脈内投与による血栓溶解療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	45
2	筋萎縮性側索硬化症	13	57	特発性拡張型心筋症	46
3	脊髄性筋萎縮症	9	58	肥大型心筋症	4
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	4	60	再生不良性貧血	24
6	パーキンソン病	51	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	39
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	3
10	シャルコー・マリー・トウス病	1	65	原発性免疫不全症候群	5
11	重症筋無力症	48	66	IgA腎症	11
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	10
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	42	68	黄色靱帯骨化症	20
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	9	69	後縦靱帯骨化症	24
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	9
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	106
17	多系統萎縮症	11	72	下垂体性ADH分泌異常症	9
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	16	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	7
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	78	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	8
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	32
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	7	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	15	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	49
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	17
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	10
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1
34	神経線維腫症	9	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	6	90	網膜色素変性症	15
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	9	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	16
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	20	95	自己免疫性肝炎	2
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	67
42	結節性多発動脈炎	7	97	潰瘍性大腸炎	168
43	顕微鏡的多発血管炎	28	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	20	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	11	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	GFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	219	104	ユステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	84	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	63	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	31	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	22	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	8	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	5	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名			疾患名		
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	0
113	筋ジストロフィー	7	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	2	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	1	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	3
118	脊髄腫瘍	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異常形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	2	190	鯉耳腎症候群	2
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイノミー症候群	0
151	ラスムツェン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	1	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	4	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名			疾患名		
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	1
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクト木症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	9	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膿性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	4
224	萎縮性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫瘍/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球病	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	2
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	1
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	1
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算2
・歯科外来診療環境体制加算	・退院支援加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7:1入院基本料)	・精神科急性期医師配置加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟13:1入院基本料)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・超急性期脳卒中加算	・救命救急入院料3
・診療録管理体制加算1	・救命救急入院料4
・医師事務作業補助体制加算1(100対1補助体制加算)	・特定集中治療室管理料2
・25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割未満)	・新生児特定集中治療室管理料2
・看護職員夜間配置加算	・小児入院医療管理料2
・看護補助加算2	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1、2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・小児食物アレルギー負荷試験
・糖尿病合併症管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・がん患者指導管理料2、3	・画像診断管理加算2
・外来緩和ケア管理料	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・CT撮影及びMRI撮影
・糖尿病透析予防指導管理料	・冠動脈CT撮影加算
・外来放射線照射診療料	・外傷全身CT加算
・ニコチン依存症管理料	・心臓MRI撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・乳房MRI撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・薬剤管理指導料	・外来化学療法加算1
・医療機器安全管理料1、2	・無菌製剤処理料
・在宅患者訪問看護・指導料3、同一建物居住者訪問看護・指導料3	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)、初期加算
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)、初期加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・運動器リハビリテーション料(I)、初期加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・呼吸器リハビリテーション料(I)、初期加算
・検体検査管理加算(IV)	・がん患者リハビリテーション料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・集団コミュニケーション療法料
・胎児心エコー法	・医療保護入院等診療料
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・処置の休日加算1、時間外加算1、及び深夜加算1
・ヘッドアップティルト試験	・硬膜外自家血注入
・人工臓器検査、人工臓器療法	・透析液水質確保加算2
・脳波検査判断料1	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・神経学的検査	・歯科技工加算
・補聴器適合検査	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算

施設基準の種類	施設基準の種類
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る)	・生体腎移植術
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・羊膜移植術	・手術の休日加算1、時間外加算1、及び深夜加算1
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術(胃瘻造設術)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・輸血管管理料 I
・網膜再建術	・自己生体組織接着剤作成術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に限る) 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に限る)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・歯周組織再生誘導手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・麻酔管理料(I)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・麻酔管理料(II)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・放射線治療専任加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・外来放射線治療加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・高エネルギー放射線治療
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術	・1回線量増加加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・補助人工心臓	・体外照射呼吸性移動対策加算
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・定位放射線治療
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除を伴うものに限る)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下肝切除術	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・口腔病理診断管理加算2
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・
・同種死体腎移植術	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・硬膜外自家血注入療法	・
・実物大臓器モデルによる手術支援	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週4回
剖検の状況	剖検症例数 38 例 / 剖検率 11.2 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
全身性自己免疫疾患に対する新規B細胞標的療法の開発	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科	1,040,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
新規多発血管炎性肉芽腫症モデルマウスの確立	小野 伸之	膠原病・リウマチ内科	1,300,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
血漿遊離DNAの出現機序の解析とヒト肺がん細胞転移モデルマウスへの応用	荒金 尚子	呼吸器内科	1,430,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
スモンに関する研究	原 英夫	神経内科	700,000	補委 厚生労働行政推進調査事業費補助金(分担)
本邦独自の多面的脳出血診断法開発のための基盤的研究-脳アミロイド時代への対応-	薬師寺 祐介	神経内科	1,690,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
*脳卒中研究者新ネットワークを活用した脳・心血管患者における抗血栓療法の実態と安全性の解明	薬師寺 祐介	神経内科	250,000	補委 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター研究センター
細胞内コレステロールを標的とする新規の白血病治療法の開発	久保田 寧	血液・腫瘍内科	1,820,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
白血病p53による白血病微小環境の変調	小島 研介	血液・腫瘍内科	1,820,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
MEK阻害剤を用いた移植後GVHDの選択的抑制と感染・腫瘍免疫の温存	進藤 岳郎	血液・腫瘍内科	1,430,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
*アンメットメディカルニーズにおける抗がん薬のPK/PDに基づく最適化医療の実施	木村 晋也	血液・腫瘍内科	390,000	補委 国立研究開発法人 国立がん研究センター
心血管疾患における新規バイオマーカーの検証	野出 孝一	循環器内科	910,000	補委 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター研究センター
運動誘起性アディポカインによる非アルコール性脂肪肝治療の探索	高橋 宏和	肝臓・糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
早期転移をきたす予後不良なメルケル細胞癌の癌間質標的療法に向けた基礎的研究	成澤 寛	皮膚科	2,730,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
メルケル細胞癌の生存、増殖、分化に対する有棘細胞癌の影響およびその修飾因子の解明	永瀬 浩太郎	皮膚科	910,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
ミトコンドリアマイトファジー機構の破綻を介した胃癌悪性度亢進の新規メカニズム解明	中村 淳	一般・消化器外科	1,560,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
低酸素環境下での変異型p53に対する癌治療戦略	平木 将紹	一般・消化器外科	1,690,000	補委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規組織工学による次世代型血管外科再生治療法の開発	伊藤 学	心臓血管外科	1,690,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
診断群分類包括評価データを用いた従来手術と新たな低侵襲手術の費用対効果の比較	柚木 純二	心臓血管外科	1,430,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
組織工学を用いたiPS細胞由来心筋組織の神経細胞配合による心機能改善効果の検討	迎 洋輔	心臓血管外科	1,950,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
バイオ3Dプリンタ、幹細胞技術を用いた心血管組織の開発と、組織内細胞動態の解明	森田 茂樹	心臓血管外科	12,480,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
癌の代謝とエピゲノム異常をつなぐDNA脱メチル化酵素TETの神経腫瘍における役割	中原 由紀子	脳神経外科	2,210,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
小児外傷性硬膜下血腫の疫学調査に基づく虐待と事故の鑑別システムの構築	吉岡 史隆	脳神経外科	1,040,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
グリオーマと脂肪酸代謝関連分子の関係について	若宮 富浩	脳神経外科	1,950,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
スーパー抗体酵素による脳腫瘍幹細胞を標的とした革新的治療法の開発	阿部 竜也	脳神経外科	1,560,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
頭頸部癌に対する腫瘍溶解性ウイルス療法導入のための基礎的研究	山内 盛泰	脳神経外科	1,170,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	馬渡 正明	整形外科	100,000	(補) 厚生労働科学研究費補助金(分担) 委
新たなHMG関連タンパク質の骨吸収活性制御における役割	馬渡 正明	整形外科	1,820,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
骨片の把持機能向上のために表面加工を施した低侵襲骨接合プレートの力学特性	園畑 素樹	整形外科	1,430,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
佐賀県排泄ケアネットの関連施設における調査及び介入研究の実施	野口 満	泌尿器科学	800,000	(補) 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 委
糖尿病足病変予測因子としての糖尿病性神経障害と足部機能に関する研究	菊池 守	形成外科	1,690,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
糖尿病足病変における荷重圧分散を考慮したモジュール化した靴の開発	上村 哲司	形成外科	1,690,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
慢性痛動物モデルに対するインターロイキン-27投与の効果	笹栗 智子	放射線科	2,470,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
血管系IVRにおける適応と治療効果の定量的評価法の確立	安座間 真也	放射線科	1,560,000	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
慢性的痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為の医療システム構築に関する研究	門司 晃	精神医学	200,000	(補) 厚生労働行政推進調査事業費補助金(分担) 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
*脳脊髄液サンプルを用いたうつ病バイオマーカーの開発	門司 晃	精神医学	1,040,000	補 委 国立研究開発法人 国立精神・神経医療 研究センター
認知症発症リスクバイオマーカーに関する前方視的研究:伊万里市長期縦断疫学研究	川島 敏郎	精神神経科	1,040,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究	松尾 宗明	小児科	500,000	補 委 厚生労働科学研究 費補助金(分担)
神経皮膚症候群に関する診療科横断的検討による科学的根拠に基づいた診療指針の確立	松尾 宗明	小児科	900,000	補 委 厚生労働科学研究 費補助金(分担)
血流ストレスと血管内皮から見たもやもや病の病態解析	松尾 宗明	小児科	1,560,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
生理的感覚感度調節に寄与するサイトカインの発見と、その疼痛調節メカニズムの解明	平川 奈緒美	麻酔科蘇生科	910,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
緑茶カテキンのがん細胞殺傷のしくみに基づいた新しい子宮頸部病変治療法の開発	横山 正俊	産科婦人科	1,170,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
より安全な硝子体手術を目指した薬剤と器械開発のための包括的研究	江内田 寛	眼科	1,690,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
siRNA・アテロローゲン複合体を用いた全く新しい緑内障治療薬の開発	石川 慎一郎	眼科	1,560,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
胃酸逆流と気道疾患 一動物モデルを用いた検討一	島津 倫太郎	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	1,300,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
ラミニン γ 2鎖による上皮成長因子受容体活性化とその阻害に関する研究	倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	1,170,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
頭頸部癌に対する腫瘍溶解性ウイルス療法導入のための基礎的研究	山内 盛泰	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	1,170,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
口腔癌の骨浸潤モデルにおけるカテプシンK阻害剤の機能解析	檀上 敦	歯科口腔外科	1,430,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
TRPチャネルを標的とした口腔癌に対する新規診断・治療法の探索	合島 怜央奈	歯科口腔外科	1,300,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
胆嚢癌におけるムチンコア蛋白およびCD1a蛋白発現の意義と免疫機構への影響	甲斐 敬太	病理診断科	1,430,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
食道癌の広範囲内視鏡的粘膜層剥離術を可能とする高密度コラーゲン治療デバイスの開発	青木 茂久	病理診断科	1,820,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
胃癌細胞の生存・増殖・浸潤・脂肪滴沈着における脂肪組織の役割とその制御機構	戸田 修二	病理診断科	1,170,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
肝・胆道癌の発癌・進展における鉄代謝関連蛋白発現調節機構の病理学的解明	相島 慎一	病理診断科	1,820,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
*コラーゲンペプチドゲルの形状加工技術を活用した医療機器試作品の動物実験	青木 茂久	病理診断科	10,829,000	補 委 国立研究開発法人 農業・食品産業技術 総合研究機構
熱傷創部の植皮術に適した3次元培養皮膚作成における脂肪由来間葉系幹細胞の機能解析	小網 博之	高度救命救急センター	1,820,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
大規模医療情報基盤を利用した敗血症の治療に関する医療経済学的分析と評価	阪本 雄一郎	高度救命救急センター	1,690,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
地域救急医療の質の向上に資する科学的証拠の構築に関する研究	山田 クリス孝介	高度救命救急センター	5,590,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
臨床および臨床研究の充実のための本人に関する多種多様な情報のデジタル化・ネットワーク化及び統合的な利活用を可能とする基盤技術に関する研究(2)	阪本 雄一郎	高度救命救急センター	51,719,000	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ソーシャルマーケティング手法を用いた心停止下臓器提供の選択肢提示を行う際の理想的な対応の在り方の確立に関する研究	江口有一郎	肝疾患センター	11,737,000	補 委 厚生労働科学研究 費補助金
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	江口有一郎	肝疾患センター	10,000,000	補 委 厚生労働科学研究 費補助金(分担)
HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究	江口有一郎	肝疾患センター	1,000,000	補 委 厚生労働行政推進 調査事業費補助金 (分担)
研究者と自治体の協働による、がん検診受診率向上等、自分自身で健康を守るための国民の行動変容を促す方法の開発と評価	江口有一郎	肝疾患センター	500,000	補 委 厚生労働科学研究 費補助金(分担)
新人医療従事者のストレス、勤務環境、蓄積的疲労と自律神経機能の変動に関する検討	吉田 和代	卒後臨床研修センター	520,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
心拍変動を用いた研修医の自律神経機能・ストレス評価と研修プログラム適正化への応用	吉田 和代	卒後臨床研修センター	1,170,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
*現場で使用されている既存のロボットリハビリテーション機器の効果検証に関する研究	浅見 豊子	リハビリテーション科	5,000,000	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
成人T細胞白血病・リンパ腫の進展におけるエピゲノム異常の網羅的解析	末岡 榮三朗	輸血部	1,820,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金
*国内完結型がんクリニカルシーケンスの社会実装と統合データベース構築およびゲノム医療人材育成に関する研究開発	末岡 榮三朗	輸血部	16,380,000	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
慢性腎臓病(CKD)患者の認知機能に関する前向き観察研究	吉田 寿子	臨床研究センター	650,000	補 委 文部科学省(日本学 術振興会) 科学研究費補助金

計67件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の
前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入す
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Y.Tada N.Ono R.Suematsu 他	膠原病・リウマチ内科	The balance between Foxp3 and Ror- γ t expression in peripheral blood is altered by tocilizumab and abatacept in patients with rheumatoid arthritis	BMC Musculoskelet Disord. 2016 Jul;17:290	Original Article
2	Y.Tada M.Washio T.Horiuchi 他	膠原病・リウマチ内科	Influence of Medical History in Parents or Siblings on the Development of Systemic Lupus Erythematosus among Japanese Females	International Medical Journal ,2016 Oct;23(5):466-469	Original Article
3	N.Ono K.Murakami O.chan 他	膠原病・リウマチ内科	Exposure to sequestered self-antigens in vivo is not sufficient for the induction of autoimmune diabetes	PLOS ONE. 2017 Mar;12(3):e0173176	Original Article
4	K.Hosoya S.Matsusaka T.Kashiwada 他	呼吸器内科	Detection of KRAS Mutations in plasma DNA using a fully automated rapid detection system in colorectal cancer patients	Pathol Oncol Res. 2017 Jan doi: 10.1007/s12253-016-0175-1	Original Article
5	K.Komiya T.Nakamura C.Nakashima 他	呼吸器内科	SPARC is a Possible Predictive Marker for Albumin-bound Paclitaxel in Non-small Cell Lung Cancer.	Oncotargets Ther. 2016 Oct; 91:6663-6668	Original Article
6	H.Tashiro K.Takahashi M.Tanaka 他	呼吸器内科	Characteristics and prognosis of microscopic polyangiitis with bronchiectasis, Journal of Thoracic Disease	Journal of Thoracic Disease. 2017 Feb;9(2):303-309	Original Article
7	H.Tashiro K.Takahashi S.Hayashi 他	呼吸器内科	Interleukin-33 from monocytes recruited to the lung contributes to house dust mite-induced airway inflammation in a mouse model.	PLoS One. 2016 Jun;11(6):e0157571	Original Article
8	N.Sueoka- Aragane N.Katakami M.Satouchi 他	呼吸器内科	Monitoring EGFR T790M with plasma DNA from lung cancer patients in a prospective observational study.	Cancer Sci. 2016 Feb;107(2):162-7	Original Article
9	H.Hara F.Ono S.Nakamura 他	神経内科	Oral Ab vaccine using recombinant adeno-associated virus vector in aged monkeys: reduction of plaque amyloid but increase of Ab oligomers.	J Alzheimers Dis. 2016 Oct; 54(3):1047-1059	Original Article
10	H.Itamura T.Shinda I.Tawara 他	血液・腫瘍内科	The MEK Inhibitor Trametinib Separates Murine Graft-versus-Host Disease from Graft-versus-Tumor Effects.	JCI Insight. 2016 Jul;1(10):e86331	Original Article
11	M.Ide S.Koba N.Sueoka- Aragane 他	血液・腫瘍内科	Mutation profile of B-raf gene analyzed by fully automated system and clinical features in Japanese melanoma patients.	Pathol Oncol Res. 2017 Jan;23(1):181-188	Original Article
12	H.Ureshino T.Shindo H.Nishikawa 他	血液・腫瘍内科	Effector regulatory T cells reflects antitumor immunity and autoimmunity.	Cancer Immunol Res. 2016 May; 644-649	Original Article
13	K.Hojima A.Maeda M.Yoshimura 他	血液・腫瘍内科	The pathophysiological significance of PPM1D and therapeutic targeting of PPM1D-mediated signaling by GSK2830371 in mantle cell lymphoma.	Oncotarget. 2016 Sep; 7(43):69625-69637	Original Article
14	Y.Nishida A.Maeda MJ.Kim 他	血液・腫瘍内科	The novel BMI-1 inhibitor PTC596 downregulates MCL-1 and induces p53-independent mitochondrial apoptosis in acute myeloid leukemia progenitor cells	Blood Cancer Journal. 2017 Feb ;7(2):e527	Original Article
15	J.Oyama K.Node	循環器内科	Prevalence of prehypertension and left ventricular hypertrophy.	Hypertens Res. 2017 Feb;40(6):544-545	Original Article

16	J.Oyama A.Shiraki T.Nishioka 他	循環器内科	EGCG, a green tea catechin, attenuates the progression of heart failure induced by the heart/muscle-specific deletion of MnSOD in mice.	J Cardiol. 2017 Feb;69(2):417-427	Original Article
17	J.Oyama T.Murohara M.Kitakaze 他	循環器内科	The Effect of Sitagliptin on Carotid Artery Atherosclerosis in Type 2 Diabetes: The PROLOGUE Randomized Controlled Trial.	PLoS Med. 2016 Jun;13(6):e1002051	Original Article
18	J.Oyama A.Tanaka Y.Sato 他	循環器内科	Rationale and design of a multicenter randomized study for evaluating vascular function under uric acid control using the xanthine oxidase inhibitor, febuxostat: the PRIZE study.	Cardiovasc Diabetol. 2016 Jun ;5:87	Original Article
19	M.Shinomura J.Oyama M.Takeushi 他	循環器内科	Acute effects of statin on reduction of angiotensin-like 2 and glyceraldehyde-derived advanced glycation end-products levels in patients with acute myocardial infarction: a message from SAMIT (Statin for Acute Myocardial Infarction Trial).	Heart Vessels, 2016 Oct; 31(10):1583-9	Original Article
20	A.Tanaka T.Nakamura E.Sato 他	循環器内科	Different Effects of Tolvaptan in Patients with Idiopathic Membranous Nephropathy with Nephrotic Syndrome.	Intern Med. 2017 Jan;56(2):191-196	Original Article
21	A.Tanaka T.Nakamura E.Sato 他	循環器内科	Clinical Effects of Topiroxostat on Renal and Endothelial Function in A Patient with Chronic Kidney Disease and Hyperuricemic Arteriolopathy: A Case Report.	Drugs R D. 2017 Jan;17(1):97-101	Original Article
22	A.Tanaka H.Node	循環器内科	Emerging roles of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors in cardiology.	J Cardiol. 2017 Mar;69(3):501-507	Original Article
23	A.Tanaka T.Nakamura E.Sato 他	循環器内科	Progressive idiopathic nodular glomerulosclerosis mimicking diabetic nephropathy without abnormal glycemic metabolism.	Nephrology (Carlton). 2016 Dec;21(12):1074-1075	Original Article
24	A.Tanaka T.Murohara U.Taguchi 他	循環器内科	Rationale and design of a multicenter randomized controlled study to evaluate the preventive effect of ipragliflozin on carotid atherosclerosis: the PROTECT study.	Cardiovasc Diabetol. 2016 Sep;15(1):133	Original Article
25	A.Tanaka H.Node	循環器内科	Novel insights into renovascular hypertension and cardio-renal protection by iron restriction.	Hypertens Res. 2016 Dec; 39(12):829-831	Original Article
26	A.Tanaka T.Inoue M.Kitakaze 他	循環器内科	Rationale and design of a randomized trial to test the safety and non-inferiority of canagliflozin in patients with diabetes with chronic heart failure: the CANDLE trial.	Cardiovasc Diabetol, 2016 Apr;15:57	Original Article
27	A.Tanaka T.Nakamura E.Sato 他	循環器内科	Aquaporin-2 is a potential biomarker for tolvaptan efficacy in decompensated heart failure complicated by diabetic nephrotic syndrome.	Int J Cardiol, 2016 May;210:1-3	Original Article
28	Y.Hikichi M.Umezumi K.Node 他	循環器内科	Reduction in incomplete stent apposition area caused by jailed struts after single stenting at left main bifurcation lesions: micro-CT analysis using a three-dimensional elastic bifurcated coronary artery model.	Cardiovasc Interv Ther, 2017 Jan ;32(1):12-17	Original Article
29	M.Miyazono T.Kishi T.Takashima 他	腎臓内科	Characteristics of Minimal Change Nephrotic Syndrome in the Elderly Patients.	Enliven: Nephrol Renal Stud 3, 2016 Jul;1:1-4	Original Article
30	K.Yamanouchi S.Ogata Y.Sakata 他	消化器内科	Effect of additional surgery after noncurative endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer.	Endosc Int Open. 2016 Apr;4(1):E24-9	Original Article
31	R.Shimoda Y.Sakata T.Fujise 他	消化器内科	The adenoma miss rate of blue-laser imaging vs. white-light imaging during colonoscopy: a randomized tandem trial.	Endoscopy, 2017 Feb;49(2):186-190	Original Article
32	K.Nagase H.Kimura N.Yonekura 他	皮膚科	Large-cell neuroendocrine carcinoma of the skin: ultrastructural and immunohistochemical findings.	J Cutan Pathol. 2016 Sep;43(11):1067-1073	Original Article
33	K.Nagase H.Kimura S.Ogawa 他	皮膚科	Merkel cell carcinoma associated with stable chronic hemodialysis: A report of two cases.	J Dermatol. 2016 Jun;43(11):1336-1339	Original Article

34	H.Noshiro K.Kai Y.Yoda 他	一般・消化器外科	Palsy of the recurrent laryngeal nerves in association with an ultrasonic activated device during thoracoscopic esophagectomy with three field lymphadenectomy	Esophagus, 2016 Jun;13:351-360	Original Article
35	T.Takaka Y.Ikegami H.Nakazawa 他	一般・消化器外科	Low-Dose Farnesyltransferase Inhibitor Suppresses HIF-1 α and Snail Expression in Triple-Negative Breast Cancer MDA-MB-231 Cells In Vitro.	Journal of Cellular Physiology, 2016 Jun, 232 (1) :192-201	Original Article
36	M.Shigeki	心臓血管外科	Aortic valve replacement and prosthesis-patient mismatch in the era of trans-catheter aortic valve implantation.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery, 2016 May;64(8):435-40	Original Article
37	K.Furukawa K.Kamohara J.Yunoki 他	心臓血管外科	Should the annulus be fixed in aortic valve-sparing root replacement with remodeling?	General Thoracic and Cardiovascular Surgery, 2017 Feb;65(4):200-205	Original Article
38	J.Masuoka T.Matsushima Y.Nakahara 他	脳神経外科	Outcome of microvascular decompression for hemifacial spasm associated with the vertebral artery.	Neurosurg Rev. 2016 Jun;40(2):267-273	Original Article
39	S.Someya M.Sonohata S.Ide 他	整形外科	Lower Limbs Alignments in Patients with a Unilateral Completely Dislocated Hip.	Open Orthop J, 2016 Sep;26(10):448-456	Original Article
40	M.Sonohata Y.Yonekura M.Kitajima 他	整形外科	Transpositional periacetabular osteotomy with allografting patients with severe dysplasia:mid-term results.	Hip Int. 2017 Feb;27(1):35-41	Original Article
41	M.Sonohata M.Kitajima S.Kawano 他	整形外科	Total Hip Arthroplasty for the Paralytic and Non-paralytic Side in Patient with Residual Poliomyelitis.	Open Orthop J, 2016 May;10:105-110	Original Article
42	M.Sonohata M.Kitajima S.Kawano 他	整形外科	Total hip arthroplasty with femoral subtrochanteric osteotomy after Schanz osteotomy.	J Orthop Sci, 2016 Apr;21(4):469-474	Original Article
43	M.Sonohata M.Kitajima S.Kawano 他	整形外科	Nerve Palsy after Total Hip Arthroplasty without Subtrochanteric Femoral Shortening Osteotomy for a Completely Dislocated Hip Joint.	Open Orthop J, 2016 Dec;10:785-792	Original Article
44	S.Kawano M.Sonohata M.Kitajima 他	整形外科	Highly Cross-linked Polyethylene Liner Dissociation from a Cementless Modular Acetabular Shell:Two Case Reports	The Open Orthopaedics Journal . 2016 Dec;10:732-740	Original Article
45	K.Tsunoda M.Sonohata H.Kigisaki 他	整形外科	The Effect of Air Tourniquet on Interleukin-6 Levels in Total Knee Arthroplasty	Open Orthop J, 2017 Jan;11:20-28.	Original Article
46	S.Eto S.Kawano S.Someya 他	整形外科	First clinical Experience With Thermal-Sprayed Silver Oxide-Containing Hydroxyapatite Coating Implant.	J Arthroplasty. 2016 Jul;31(7):1498-1503	Original Article
47	M.Ueno H.Miyamoto M.Tsukamoto 他	整形外科	Silver-Containing Hydroxyapatite Coating Reduces Biofilm Formation by Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus In Vitro and In Vivo	Biomed Res Int, 2016 Dec;2016:8070597	Original Article
48	T.Morimoto T.Yoshihara Y.Yakushiji 他	整形外科	Worsening Cervical Epidural Hematoma After Tissue Plasminogen Activator Administration For Stroke Like Symptoms.	Spine, 2016 Apr;41(7):E437-440	Original Article
49	M.Izumi T.Sakai A.Shirakawa 他	整形外科	Reduced induction of anti-PF4/heparin antibody in RA patients after total knee arthroplasty.	Arthritis Res Ther, 2016 Aug;18:191	Original Article
50	S.Kurata M.Noguchi S.Tobu 他	泌尿器科	Instructing females to wipe their vulva after bowel movements is unnecessary to prevent cystitis: a short research report.	Int J of Urol Nurs, 2016: 10(3):173-175	Original Article
51	S.Tobu M.Noguchi K.Takahara 他	泌尿器科	The Efficacy of a Transurethral Incision for Diurnal and Nocturnal Enuresis in Young Males	Curr Urol, 2016 May;9(2):79-81	Original Article

52	M.Kawasaki- Nanri S.Aoki K.Uchihashi 他	泌尿器科	Differential effects of adipose tissue stromal cells on the apoptosis, growth and invasion of bladder urothelial carcinoma between the superficial and invasive types.	Int J of Urol, 2016 Jun;23 (6) : 510-519	Original Article
53	T.Uemura H.Watanabe K.Masumoto 他	形成外科	Aesthetic Total Reconstruction of Lower Eyelid Using Scapha Cartilage Graft on Vascularized Propeller Flap	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2016 Apr;4 (4) :e696	Original Article
54	T.Uemura T.Chuman T.Fujii 他	形成外科	Retrosseptal Transconjunctival Approach for Blowout Fracture of the Orbital Floor: An Ideal choice in East-Asian patients.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2016 May;4 (5) :e725	Original Article
55	T.Uemura T.Yanai M.Yasuta 他	形成外科	Switch Flap for Upper Eyelid Reconstruction—How Soon Should the Flap Be Divided?	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2016 Apr;4 (4) :e695	Original Article
56	T.Uemura H.Watanabe K.Masumoto 他	形成外科	Transconjunctival Approach for Zygomatic Fracture:A Single Surgeon's Experience of over 20 Years.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2016 Jun;4 (6) :e757	Original Article
57	T.Uemura	形成外科	In Situ Splitting of a Rib Bone Graft for Reconstruction of Orbital Floor and Medial Wall	Craniofacial Trauma Reconstr. 2017 Mar;10 (2) : 123-129	Original Article
58	K.Yamagushi T.Nakazono R.Egashira 他	放射線科	Diagnostic Performance of Diffusion Tensor Imaging with Readout-segmented Echo-planar Imaging for Invasive Breast Cancer: Correlation of ADC and FA with Pathological Prognostic Markers.	Magn Reson Med Sci. 2016 Nov;16 (3) :245-252	Original Article
59	T.Asami M.Kitajima Y.Nanri 他	リハビリテーション科	Case Report on Long-Term, Continuous Improvement of Walking Ability as a Result of Botulinum Toxin Injection Therapy and Low-Frequency Rehabilitation with HAL	International Journal of Physical Medicine & Rehabilitation. 2016 May;4, 339	Original Article
60	Y.Haraguchi Y.Mizoguchi T.Noguchi 他	精神神経科	A patient with Alzheimer's disease complicated by elderly-onset Cushing's syndrome who had undergone surgical treatment for adrenocorticotropic hormone-independent macronodular adrenal hyperplasia.	Psychogeriatrics. 2016 Jul; 16 (4) : 274-6	Original Article
61	J.Maruo Y.Haraguchi H.Tateishi 他	精神神経科	Abnormal behaviours during pramipexole treatment for Cotard's syndrome: a case report.	Psychogeriatrics. 2016 Jul;16 (4) :283-6	Original Article
62	Y.Imamura Y.Mizoguchi H.Nabeta 他	精神神経科	An association between belief in life after death and serum oxytocin in older people in rural Japan.	Int J Geriatr Psychiatry. 2017 Jan;32 (1) :102-109	Original Article
63	Y.Mizoguchi A.Monji	精神神経科	Microglial Intracellular Ca(2+) Signaling in Synaptic Development and its Alterations in Neurodevelopmental Disorders.	Front Cell Neurosci. 2017 Mar;11:69	Original Article
64	A.Noguchi K.Kuga N.Tashiro 他	麻酔科蘇生科	Changes in uncuffed endotracheal tube leak during laparoscopic inguinal herniorrhaphy in children.	Journal of Anesthesia. 2016 Aug; 30 (4) : 702-6	Original Article
65	Y.Otsuka K.Higashimoto T.Oka 他	小児科	Identification of consensus motifs associated with mitotic recombination and clinical characteristics in patients with paternal uniparental isodisomy of chromosome 11.	Hum Mol Genet. 2016 Apr;25 (7) :1406-19	Original Article
66	H.Enaida S.Nagata A.Takeda 他	眼科	Changes in chorioretinal blood flow velocity and cerebral blood flow after carotid endarterectomy.	Jpn J Ophthalmol. 2016 Nov; 60 (6) : 459-465	Original Article
67	K.Mori Y.Yamashita N.Teramoto	歯科口腔外科	Effects of ZD0947, a novel and potent ATP-sensitive K ⁺ channel opener, on smooth muscle-type ATP-sensitive K ⁺ channels.	European Journal of Pharmacology. 2016 Nov;791: 773-779	Original Article
68	Y.Yamashita M.Inoue R.Aijima 他	歯科口腔外科	Three-dimensional evaluation of healing joint morphology after closed treatment of condylar fractures.	Int. J Oral Maxillofac Surg. 2016 May;45 (3) :292-6	Original Article
69	T.Miike Y.Sakamoto R.Sakurai 他	高度救命救急センター	Effects of hyperbaric exposure on thrombus formation.	Undersea Hyperb Med, 2016 May;4 3 (3) :233-8.	Original Article

70	H.Koami Y.Sakamoto R.Sakurai 他	高度救命救急センター	Utility of Measurement of Serum Lactate in Diagnosis of Coagulopathy Associated with Peripheral Circulatory Insufficiency: Retrospective Evaluation Using Thromboelastometry from a Single Center in Japan	Journal of Nippon Medical School 2016;83(4):150-7.	Original Article
71	H.Koami Y.Sakamoto T.Furukawa 他	高度救命救急センター	Utility of Rotational thromboelastometry (ROTEM) for the diagnosis of asymptomatic hyperfibrinolysis secondary to anaphylaxis.	Blood Coagulation and Fibrinolysis, 2016 Jun;27(4):450-3.	Original Article
72	H.Koami Y.Sakamoto R.Sakurai 他	高度救命救急センター	The thromboelastometric discrepancy between septic and trauma induced disseminated intravascular coagulation diagnosed by the scoring system from the Japanese Association for Acute Medicine.	Medicine (Baltimore). 2016 Aug; 95(31):e4514.	Original Article
73	Y.Eguchi N.Furukawa T.Furukawa 他	肝疾患センター	"Weariness" and "unpleasantness" reduce adherence to branched-chain amino acid granules among Japanese patients with liver cirrhosis: results of a single-center cross-sectional survey.	Hepatol Res. 2016 May;47(3):E169-E177	Original Article
74	S.Oeda S.Iwane M.Takasaki 他	肝疾患センター	Optimal Follow-up of Patients with Viral Hepatitis Improves the Detection of Early-stage Hepatocellular Carcinoma and the Prognosis of Survival.	Intern Med, 2016 Oct;55(19):2749-2758.	Original Article
75	M.Maeda Y.Nakano T.Aoyama 他	薬剤部	Study on rectal administration of azithromycin by suppository for pediatric use.	Int. Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics, 2016 Apr;54(4):263-268.	Original Article
76	R.Sogawa S.Mochinaga T.Inaba 他	薬剤部	Safety of Long-term Use of Lamotrigine for the Treatment of Psychiatric Disorders.	Clin Neuropharmacol, 2016 Nov;39(6):295-298.	Original Article
77	R.Sogawa Y.Shimomura C.Minami 他	薬剤部	Aripiprazole-Associated Hypoprolactinemia in the Clinical Setting.	J Clin Psychopharmacol, 2016 Aug;36(4):385-387.	Original Article
78	H.Koami Y.Sakamoto T.Miyasho 他	先端外傷治療学原著	Haptoglobin Reduces Inflammatory Cytokine INF- γ and Facilitates Clot Formation in Acute Severe Burn Rat Model.	J Nippon Med Sch, 2017; 84(2):64-72.	Original Article

計78件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なるものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究に係る業務、重篤な有害事象及び不具合等に対して研究者等が実施すべき事項に関すること 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の管理について、利益相反の手続きについて 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年20回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究セミナー」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・膠原病等特定疾患診療に関する勉強会
- ・臨床免疫学に関する勉強会
- ・関節超音波検査の習得
- ・膠原病等特定疾患治療における免疫抑制療法の習得
- ・認知症症例検討会
- ・神経難病症例検討会
- ・脳卒中症例検討会
- ・同種造血幹細胞移植 等 計76件

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 345人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
多田 芳史	膠原病・リウマチ内科	科長	32年	
原 英夫	神経内科	科長	34年	
荒金 尚子	呼吸器内科	科長	30年	
木村 晋也	血液・腫瘍内科	科長	31年	
野出 孝一	循環器内科	科長	29年	
池田 裕次	腎臓内科	科長	30年	
藤本 一真	消化器内科	科長	38年	
安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科	科長	31年	
成澤 寛	皮膚科	科長	37年	
能城 浩和	一般・消化器外科	科長	32年	
森田 茂樹	心臓血管外科	科長	37年	
阿部 竜也	脳神経外科	科長	27年	
馬渡 正明	整形外科	科長	34年	
野口 満	泌尿器科	科長	30年	
上村 哲司	形成外科	科長	30年	
松尾 宗明	小児科	科長	32年	
横山 正俊	産婦人科	科長	33年	
江内田 寛	眼科	科長	23年	
倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	35年	
佐藤 英俊	地域包括緩和ケア科	科長	27年	
入江 裕之	放射線科	科長	31年	
浅見 豊子	リハビリテーション科	科長	33年	

門司 晃	精神神経科	科長	32年	
山下 佳雄	歯科口腔外科	科長	25年	
阪本 雄一郎	高度救命救急センター	センター長	24年	
相島 慎一	病理診断科	科長	21年	
青木 洋介	感染制御部	部長	33年	
山下 秀一	総合診療部	部長	33年	
井上 聡	先進外傷治療学 講座	講座主任	15年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数	
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数	
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	該当なし
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数	

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 山下 秀一
管理担当者氏名	医療安全管理室長：木村 晋也、感染制御部長：青木 洋介、MEセンター長：坂口 嘉郎、診療記録センター長：倉富 勇一郎、看護部長：藤満 幸子、薬剤部長：成澤 寛、放射線部長：入江 裕之、総務課長：占部 健一、医事課長：北島 博文、経営管理課長：内藤 浩幸

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	経営管理課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療記録センター
		看護記録	看護部
		検査所見記録	診療記録センター
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	診療記録センター
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録センター
		従業員数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課
		高度の医療の研修の実績	医事課
		閲覧実績	—
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	MEセンター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療記録センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録センター
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部 MEセンター
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務部総務課
職員研修の実施状況	医療安全管理室		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課 医療安全管理室 薬剤部 MEセンター		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	医学部事務部長 濱野 満夫	
閲覧担当者氏名	医事課長 北島 博文	
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室	
閲覧の手続の概要 診療情報の提供を受けようとする者（申請者）が、本院の診療情報提供申請書により病院長に申請する。 病院長は、該当の診療科長へ差し支えの有無を照会し、その回答に基づき、可否を決定し、申請者に通知する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">第1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方第2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項第3 従業者に対する医療に係る安全管理のための研修に関する基本方針第4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針第5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (医療安全管理委員会に報告すべき事例の範囲、報告手順を含む。)第6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む。)第7 患者からの相談への対応に関する基本方針第8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">設置の有無 (有・無)開催状況：年12回活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">(1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。(2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。(3) 改善策の実施状況の調査及び当該策の見直しに関すること。(4) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。(5) その他医療安全管理に関し必要な事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年33回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">テーマ<ul style="list-style-type: none">第1回：「司法から見た説明義務」第2回：「特定機能病院の承認要件の見直しについて」 「インスリンポンプの放射線検査時における注意点」第3回：「アレルギー既往薬の処方・転倒転落のリスクとなる薬」	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">【問題点の把握方法】 インシデント・アクシデント速報システムによる報告、インシデント・アクシデントレポートは全て医療安全管理室で収集している。【問題点の分析方法】 集まった事例は、GRMが影響度を分類のうえサマリ化する。サマリは定例の医療安全管理室会議において分析を行う。【改善策の検討方法】 (1) 問題発生的事象に関連する部署と医療安全管理室で対応策の検	

討を行う。

(2) サマリは、定例の医療安全管理室会議において対応策等の検討を行う。

(3) 医療安全管理委員会において審議する。

【改善事例】

- ・平成28年7月21日 吸引用配管への誤接続に関する注意喚起
- ・平成28年9月21日 血管外漏出による皮膚障害発生に関する注意喚起
- ・平成29年1月19日 インスリン機器使用中患者の放射線検査を実施する
上での注意について
- ・平成29年3月16日 誤薬に関する注意喚起

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 第1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方 第2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針 第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： (1) 院内感染の予防に関すること。 (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。 (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。 (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。 (5) 感染制御部の運営に関すること。 (6) その他感染予防及び対策に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年33回
・ 研修の主な内容： テーマ 第1回：「微生物検査の適正化-無駄な検査を減らしましょう-」 第2回：「消毒薬の常識・非常識」 第3回：「耐性菌の話」	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 感染症法で届出が必要な場合は、主治医が報告書に記載し、診療科感染対策医、看護師長の確認のもと提出する。 新規発生MRSAやその他耐性菌については、感染制御部で部署への訪問や治療、及び感染対策の確認を行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医療安全研修会：全職員に対し、アレルギー既往薬の処方、転倒・転落のリスクとなる薬等について説明・ 新人スタッフオリエンテーション：新採用職員に対し、院内で安全に薬を使用するために知っておくべき知識、院内の薬の流れやルール等について説明・ 医薬品の適正使用・静脈注射における薬の注意点：2年目看護師に対し、静注する際に知って欲しい医薬品情報について説明・ 臨床入門・医療安全と薬：医学部4年生に対し、院内における医薬品の安全使用について説明	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (有・無)・ 業務の主な内容：<p>手順書に基づく業務の実施状況の確認として、各部門に対する医療安全スタッフで巡視を行っており、病棟等については下記を確認している。</p><p>確認内容：<ul style="list-style-type: none">・ 定数医薬品保管証の薬品以外に余剰の薬品を置かない。・ 麻薬、向精神薬の保管状況・医薬品の保管場所の表示・冷所保存の医薬品が整理整頓・指示受けの方法・薬剤投与の際の二人チェックや準備での2度以上の薬剤確認等・ 薬剤部内では上記巡視に加え、全薬剤師を対象に手順書の記載内容の遵守状況を薬剤師相互にチェックしている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<p>調剤時の処方鑑査、病棟薬剤師による医薬品の使用状況等の確認および医師からの相談等で未承認等の医薬品の使用の情報を収集し、定期的に医薬品安全管理責任者に報告し、必要に応じて院内の各種委員会で報告・検討している。また、医療安全管理室と協働して調剤上の疑義照会や病棟薬剤師からのプレアポイド報告などの事例や、各科に共通する重要な事例を選択して作成した「お薬に関するイエローカード」を関連する診療科長に毎月配布し情報の共有化を図っている。</p><p>PMDAメーリングリスト登録による最新の医薬品情報、Drug Safety Update (医薬品安全対策情報)、日本医療機能評価機構HPの医療事故情報収集等事業からの「医療安全情報」及び製薬会社からの情報提供等を基に、重要で速やかな周知が必要な情報は随時、病棟担当薬剤師等を通じ各病棟・診療科へ案内し、その他の場合は「薬剤部からのお知らせ」として小冊子にまとめ月に1回、各病棟、各診療科へ配布している。緊急安全性情報・安全性速報、直近のPMDA医療安全情報等は医薬品情報室から病棟担当薬剤師等を通じて速やかに処方医、診療科・病棟へ案内するなど、必要な情報を必要な場所へ必要なタイミングで提供するように努めている。また、それらの医薬品情報等は医学生・薬学生等の教育資料としても活用している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無																																				
④ 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年49回																																				
<p>・ 研修の主な内容： (MEセンター実施) 新しい医療機器の導入時研修：25回、参加者総数：416人 研修内容：医療機器の使用に関する事項、 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 特定機能病院に於ける定期研修：12回、参加者総数：184人 研修内容：医療機器の使用に関する事項、 医療機器の有効性・安全性に関する事項、 医療機器の不具合が発生した場合の対応、 その他の研修(上記研修以外の研修)：4回、参加者総数：102人 研修内容：医療機器の使用に関する事項</p> <p>(放射線部実施) 当院設置の診断用高エネルギー放射線発生装置および診療用放射線発生装置の有用性・安全性、使用方法、保守点検、不都合が発生した場合の対応、使用に関して特に法令上遵守すべき事項についての講義を受講した。</p>																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>研修内容(テーマ・講師)</th> <th>研修期間</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>安全取扱講習会 マイクロセレクトロンHDR-V2 鴻巣 洋平・他(千代田テクノル)</td> <td>平成28年10月14日 (16:45~17:45)</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>安全取扱講習会 ONCOR Impression ONCOR Impression Plus 中野渡 文雄(シーメンスヘルスケア)</td> <td>平成28年10月26日 (17:15~18:00)</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本放射線腫瘍学会第29回学術大会</td> <td>平成28年11月25日~27日 (9:00~17:00)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第61回放射線治療研究会</td> <td>平成28年12月10日 (8:50~17:00)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第5回JBMP 放射線治療品質管理士講習会</td> <td>平成28年12月17日 (9:30~12:30)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第5回JBMP 医学物理講習会</td> <td>平成28年12月17日 (14:30~17:00)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>安全取扱講習会 マイクロセレクトロンHDR-V2 小池 貴之・他(千代田テクノル)</td> <td>平成29年3月30日 (16:45~17:45)</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>安全取扱講習会 ONCOR Impression ONCOR Impression Plus 小柳 亨(シーメンスヘルスケア)</td> <td>平成29年3月31日 (17:15~18:00)</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	No	研修内容(テーマ・講師)	研修期間	参加人数	1	安全取扱講習会 マイクロセレクトロンHDR-V2 鴻巣 洋平・他(千代田テクノル)	平成28年10月14日 (16:45~17:45)	14	2	安全取扱講習会 ONCOR Impression ONCOR Impression Plus 中野渡 文雄(シーメンスヘルスケア)	平成28年10月26日 (17:15~18:00)	10	3	日本放射線腫瘍学会第29回学術大会	平成28年11月25日~27日 (9:00~17:00)	1	4	第61回放射線治療研究会	平成28年12月10日 (8:50~17:00)	3	5	第5回JBMP 放射線治療品質管理士講習会	平成28年12月17日 (9:30~12:30)	1	6	第5回JBMP 医学物理講習会	平成28年12月17日 (14:30~17:00)	1	7	安全取扱講習会 マイクロセレクトロンHDR-V2 小池 貴之・他(千代田テクノル)	平成29年3月30日 (16:45~17:45)	14	8	安全取扱講習会 ONCOR Impression ONCOR Impression Plus 小柳 亨(シーメンスヘルスケア)	平成29年3月31日 (17:15~18:00)	10	
No	研修内容(テーマ・講師)	研修期間	参加人数																																		
1	安全取扱講習会 マイクロセレクトロンHDR-V2 鴻巣 洋平・他(千代田テクノル)	平成28年10月14日 (16:45~17:45)	14																																		
2	安全取扱講習会 ONCOR Impression ONCOR Impression Plus 中野渡 文雄(シーメンスヘルスケア)	平成28年10月26日 (17:15~18:00)	10																																		
3	日本放射線腫瘍学会第29回学術大会	平成28年11月25日~27日 (9:00~17:00)	1																																		
4	第61回放射線治療研究会	平成28年12月10日 (8:50~17:00)	3																																		
5	第5回JBMP 放射線治療品質管理士講習会	平成28年12月17日 (9:30~12:30)	1																																		
6	第5回JBMP 医学物理講習会	平成28年12月17日 (14:30~17:00)	1																																		
7	安全取扱講習会 マイクロセレクトロンHDR-V2 小池 貴之・他(千代田テクノル)	平成29年3月30日 (16:45~17:45)	14																																		
8	安全取扱講習会 ONCOR Impression ONCOR Impression Plus 小柳 亨(シーメンスヘルスケア)	平成29年3月31日 (17:15~18:00)	10																																		

⑤ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況

- ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)
- ・ 保守点検の主な内容:

(医療機器関係)

点検は、機器の性質や性能などにより細部の点検項目が異なるものの大きく分類すると、外観・機能・性能・電気的安全性点検等から構成され、これらの項目を基に製造業者の取扱説明書及び添付文書に記載されている事項を参考にし、機器毎に保守点検表を作成し点検を行っている。

(放射線関係)

製造業者の点検説明書及び添付文書に基づき、電気的安全点検、機械的安全点検、予防的 point 検等、保守点検表を作成し行っている。

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

【収集方法】

(医療機器関係)

- ・ 学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。
- ・ 各製造業者より安全情報が提供される。
- ・ 医薬品医療機器等安全性情報（厚生労働省ホームページ）及び医療機器関連情報（医薬品医療機器総合機構ホームページ）より情報収集を行っている。

(放射線関係)

- ・ 各製造業者より安全情報が提供される。
- ・ 医薬品医療機器等安全性情報（厚生労働省ホームページ）及び医療機器関連情報（医薬品医療機器総合機構ホームページ）より情報収集を行っている。
- ・ 平成27年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。

【提供・周知方法】

(医療機器関係)

- ・ 製造業者より提供された安全情報を機器に携わる者に閲覧させ、保存ファイルしている。
- ・ 院内の各部門へはWebを利用した院内マニュアル統合管理システムでの医療機器の取扱説明書及び添付文書が閲覧及び印刷できる環境を構築している。

(放射線関係)

- ・ 学会等の報告会を行い、周知している。
- ・ 製造業者より提供された情報文書を機器に携わる者へ閲覧させ、保存、ファイルしている。
- ・ 放射線部情報システム (RIS) を使用し、装置マニュアル及び安全管理マニュアルの閲覧ができる。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第9条の23第1項第1号から第15号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>配置済（副病院長（安全管理・中期計画担当））。</p> <p>「医療に係る安全管理のための指針」に医療安全管理責任者について明記し、「医療安全管理委員会規程」について、委員長を副病院長として改正した。また、医療安全管理体制図を省令改正に即したものに改正した。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（6名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室という専門の部署を設置し、PMDAからのメール等利用し医薬品に関する安全性情報などについて一括して情報を収集・吟味・整理し、必要な情報を必要なタイミングで現場に周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>これまで実施してきた臨床研究センターを中心に実施予定で準備を進めている。新たな規則の基での事例は未だ発生していない。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種 薬剤部長） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none">1. インフォームドコンセントに関する基本指針2. インフォームドコンセントの成立要件3. インフォームドコンセントの実施	

- (1) 医師が実施すべき事項 (2) 医師の説明義務 (3) 説明時に医療従事者が注意すべき事項
 (4) 診療記録への記載 (5) 医療チーム内での情報共有
 4. 特殊な状況での説明と同意
 5. 看護師の同席及び記録について (申合せ)

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

①・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

委員長を含め各診療科から選出された監査担当医による医師の記録の監査を毎月実施している。この監査結果は委員長が病院の定例会議で報告した上で、各診療科にフィードバックをすることで、記載内容の指導を行っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

①・無

・所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（16）名

うち医師：専従（0）名、専任（1）名、兼任（6）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名

うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名

(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

(1) 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。

(2) 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

(3) 患者や家族への説明など医療事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

(4) 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。

(5) 医療安全に係る連絡調整に関すること。

(6) 医療安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。

(7) その他医療安全対策の推進に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

計画書を提出している。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

医療統計（院内であらたに発生した合併症や事例）の以下の21項目

1. 脳梗塞あるいは脳出血：症候性で画像検査上、明らかな病変を認めるもの。

2. 意識障害：JCSで3桁の状態が1日以上持続したもの。

3. 神経障害：歩行障害や麻痺、その他の持続する神経障害の発症。抗がん剤使用時は、Grade3以上。

4. けいれん：重積状態のもの。
5. 心停止あるいは心室細動：心肺蘇生を必要としたもの。
6. 心筋梗塞：あらたな Q 波の出現及び CPK の上昇（ $\geq 1,000U$ ）。
7. 心不全：PCPS、IABP などの補助装置を必要としたもの（院内で装着したもの）。
8. 急性腎不全：血液透析を必要としたもの。CHDF を含むが、すでに慢性透析を導入されているものは除く。
9. 呼吸不全：人工呼吸器を必要としたもの。手術後の人工呼吸器管理に関しては、7 日以上の挿管を必要としたもの。
10. 肝不全：血液浄化療法を必要としたもの。
11. 術後の重篤な感染症（SSI）：切開排膿、排液を必要としたもの。膿瘍、縦隔洞炎、膿胸、難治性（7 日以上治療を必要としたもの）創感染などで創の開放や再手術を必要としたもの。
12. 敗血性ショック：集中治療室管理を要したもの。
13. 重篤な視力、聴力などの感覚障害をきたしたもの（該当器官への手術による一過性の変化と考えられるものは除く）。
14. 多量出血（3000ml 以上）。
15. 内視鏡検査や処置中の消化管穿孔、重症膵炎。
16. 造影剤や薬剤によるアレルギー、ショック（入院加療を必要としたもの）。
17. 心臓カテーテル検査や血管内治療後の重篤な合併症：心タンポナーデなどで輸血や手術を必要とした出血、血腫形成。
18. 予定していなかった再手術（1 か月以内）や追加手術。
19. 長時間手術：予定手術時間の 2 倍あるいは、4 時間以上の超過延長。
20. 想定外の早期再入院。
21. 中心静脈穿刺に関連した合併症：動脈穿刺、気胸。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - （1）診療科等の長から高難度規程第 4 条第 1 項に定める申請（以下「申請」という。）が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度規程第 3 条第 1 項に定める高難度新規医療技術評価委員会（以下「評価委員会」という。）に対して当該高難度新規医療技術の提

供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。

- (2) 前号の意見の求めに応じ、評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対しその結果を適否結果通知書（様式第2号）により通知すること。
- (3) 当該高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合又はその他必要な場合には、診療記録等の記載内容を確認すること。
- (4) 高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうか、職員の遵守状況の確認を行うこと。
- (5) 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定した時及び高難度規程に定める事項の職員の遵守状況を確認した時に、その内容について病院長及び医療安全管理責任者に報告すること。
- (6) 評価委員会での審査資料及び議事概要並びに職員の遵守状況の確認記録を審査の日又は確認の日から少なくとも5年間保存すること。なお、保存は医療安全管理室で保管するものとする。
- (7) 評価委員会に係る事務を行うこと。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：

平成28年度は、研究を目的としない治療を目的とした保険外医療行為として臨床研究倫理審査委員会にて6件の審査を実施した。また、薬剤部を担当部門とし、未承認新規医薬品導入評価委員会において未承認新規医薬品を用いた医療の提供に関する倫理的・科学的な妥当性、本院で未承認新規医薬品を用いた医療を提供することの適切性並びに当該未承認新規医薬品を用いた医療の適切な提供方法について審査された結果に基づき実施の適否を決定することを院内規定に定めた。

平成29年9月現在で4件の審査を実施している。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況	有・無
<p>・監査委員会の開催状況：年 0 回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療安全管理部門並びに医療安全管理委員会の業務の状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて実地確認を実施すること。 その他医療の安全管理の業務執行の状況の監査を行うこと。 2 監査結果を学長又は病院長に報告し、必要に応じ、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。 3 以上の事項についてその結果を公表すること。 <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p> <p>・公表の方法： 病院ホームページ「病院案内」のページ内に掲載。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
奥村 耕一郎	国立大学法人 琉球大学	○	医療機関において、医療安全に関する業務若しくは医療安全に係る研究に従事した経験を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
横田 栄子	公益社団法人 佐賀県看護協会		医療機関において、医療安全に関する業務若しくは医療安全に係る研究に従事した経験を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
鶴田 憲司	NPO 法人クレブ スサポート		医療を受ける者の立場から意見を述べることができるため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年325件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年33件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 委員会は、次に掲げる事項を審議する。 (1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。 (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。 (3) 改善策の実施状況の調査及び当該策の見直しに関すること。 (4) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。 (5) その他医療安全管理に関し必要な事項
<p>⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ） <input checked="" type="radio"/> 無 ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ） <input checked="" type="radio"/> 無 ・技術的助言の実施状況 平成28年度は未実施。
<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 患者からの相談に応じる「医療相談窓口」を設置し対応している。手順等については、「医療相談室内規」に規定している。
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ）
<p>⑭ 職員研修の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 平成28年9月に開催した医療安全・院内感染対策に関する研修会において、「特定機能病院の承認要件の見直しについて」をテーマとして職員に周知した。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のH28年度の研修実績はなし。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 主たる機能：一般病院 2 3rdG ver. 1.1 副機能：精神科病院 3rdG ver. 1.1 認定期間 2016年5月6日～2021年5月5日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 本院ホームページへの掲載，病院広報誌，新聞・テレビ報道 等。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 以下の横断的診療班(室)を設置している。 ・褥瘡対策班 ・緩和ケア診療班 ・栄養サポート班 ・輸血療法室 ・臨床腫瘍班 ・脳卒中診療班 ・外来化学療法室 ・口腔ケアサポート班 ・呼吸サポート班 ・糖尿病診療班 ・横断的止血・血栓診療班	

(様式第 8)

佐大医経第 178 号
平成 29 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名
国立大学法人佐賀大学長
宮崎 耕 治

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

【管理者】

特定機能病院安全管理責任者研修（平成 29 年 11 月 17 日開催予定）を受講予定。

【医療安全管理責任者】

平成 29 年度第 1 回医療安全管理者養成研修会を受講済み。

【医薬品安全管理責任者】

平成 29 年度日本病院薬剤師会 医薬品安全管理責任者等講習会（平成 29 年 12 月 1 日開催予定）を受講予定。

【医療機器安全管理責任者】

平成 29 年度 医療機器安全管理責任者研修会を受講済み。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（16）名
うち医師：専従（0）名、専任（1）名、兼任（6）名
うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名
うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

看護師及び薬剤師は配置済み。

医師は専任者 1 名を配置しており、専従者の配置について検討を進めている。